

第1学年 国語科学習指導案

平成29年6月28日2校時
授業者 小林 尚子

1 題材名 はをへをつかおう ～かぞくへのメッセージ～

2 身に付けさせたい力

- 誤りのある文章から間違いを見付ける活動を通して、助詞のはをへの正しい使い方を理解し、簡単な文を書くことができる。

3 目指す子どものかかわる姿

- 誤りのある文章から間違いを見付け友達に話したり、聞いたりする姿。
- 「はをへ」を正しく使っているか確認し合う姿。

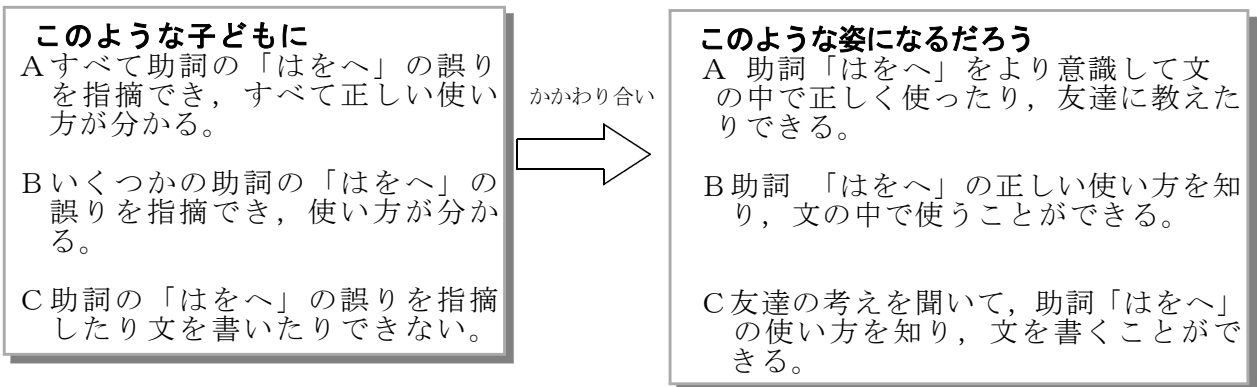
4 児童の実態

(1) 本時にかかわる学力実態

本学級の子どもたちは、平仮名の書き取りは4月までに学習している。また、5月下旬に「ぶんをつくろう」の学習では、主語と述語との関係に注意して「～が～」という句読点のある文を初めて作った。しかし、平仮名の習熟には、個人差が大きい。そのため、家庭学習を中心に言葉集めなど平仮名を書くことに取り組ませている。また、平仮名の習得につまずきのある子ども（4名）については、教師や学習支援員、A評価の子どもがアドバイスするようにしている。

入門期の子どもたちに助詞の働きを理解させるのは、難しい。そこで、「お家の人へメッセージを書こう」という共通のめあてをもたせ重点化し、丁寧に指導していく。具体的には、助詞の「はをへ」は、それだけでは、意味をもたないが、言葉と言葉をつなぐ働きがあること、「ワオエ」と発音することなどを意識させる。そして、日常の文の中で正しく使えるようにしたい。

(2) かかわり合い



4 指導計画（全5時間）

次	時	学 習 活 動
一	1	○「お家の人へメッセージを書こう」というめあてをもつ。 ○数え歌をリズムに気を付けて音読し、助詞「はをへ」は、「わおえ」と表記されないことを知る。
	2	○誤りのある文章から間違いを見付け、助詞のはをへの正しい使い方を理解し、簡単な文を作ることができる。 (本時2/5)
	3	○助詞「はをへ」を2つ使って文を作る。
	4	○助詞「はをへ」を意識して、お家の人へ学校の様子を伝えるメッセージを書く。
	5	○互いにメッセージを読み合い、正しい表記か確認したり、よさを見付けたりする。

5 本時の指導（2/5時間）

（Tは教師の指示・発問・児童の反応）

時間	学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	留意点 ◇かわり合い☆評価
<p>つかむ 5分</p>	<p>1 本時の問い・願をもつ。</p>	<p>T Dさんが、お家の人へメッセージを書きました。この文は、正しいですか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p>A 「はをへ」 がぜんぶま ちがっているよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p>B 「ぼくわ」 の「は」が ちがっているよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p>C これでいい のかな。 よく分からない。</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">↓ ↓ ↓</p> <p>T ということは、今日はどんな勉強をしたらいいですか。</p> <p>◎ はをへは、どんなときにつかえばいいのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大した誤りのある文章を提示する。 ・誤りに気付かせ、本時の問い・願いに繋げていく。
<p>解決する 25分</p>	<p>3 誤りのある文章から間違いを見付け、話し合う。</p>	<p>T Aさんの文の違っているところに線を引いて正しく直してあげましょう。</p> <p>C Aさんの文の助詞に線を引く。</p> <p>T どこが間違っているかペアで話し合いましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p>A ぼくわ げんかんえ あさがおお のところがまちがっているよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p>B ぼくわだけではなく、えやおのところが間違っていたんだね。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p>C 「わえお」のところが間違っているんだな。</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">↓ ↓ ↓</p> <p>T ペアで話し合ったことを全体でも話し合いましょう。わけも言える人は言いましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p>A ぼくわのわは、はです。ぼくがかっこうをくっつけるからです。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p>B ぼくもAさんと同じでぼくわのところは、はだと思えます。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p>C ぼくわのところは、はだと思えます。</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">↓ ↓ ↓</p> <p>T 「は」は、どんな時に読み方が「ワ」になるでしょうか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p>A 「わたしは」 「ぼくは」 言葉の下にくっつく時です。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p>B くっつきのはの時です。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p>C 「わたしは」 「ぼくは」 の時です。</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">↓ ↓ ↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大した文章と同じものを児童に配付する。 ・話し合いのやり方を説明する。 ◇ペアで、互いの考えを伝え合わせる。 ・話し合いのよいペアを賞賛する。 ◇全体で話し合わせる際には、次の点に留意する。 ・友達の意見を聞いたら、同じか違うか反応して聞けるようにする。 ・「はをへ」は、「ワオエ」と読むことを確認する。 ・「はをへ」の使い方を板書して本時のまとめにつなげる。

	4 「はをへ」を使った文を作る。	<p>T 勉強した「はをへ」を使って、メッセージに使う文作りをしましょう。</p> <div data-bbox="478 248 1082 421"> <p>A</p> <p>① わたしは、なかにわへいきました。</p> <p>② しろいはなをみつけました。</p> <p>③ わたしは、かわいいとおもいました。</p> </div> <div data-bbox="478 450 1082 562"> <p>B</p> <p>① ぼくは、おんがくしつへいきました。</p> <p>② すずをみつけました。</p> </div> <div data-bbox="478 584 1082 667"> <p>C</p> <p>① わたしは、としよしつへいきました。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもがイメージしやすいようにメッセージに沿って写真を用意し、文を書きやすいようにする。 文作りの1時間目であるため、「はをへ」のどれか1つまたは2つを使うこととする。 <p>◇ できた子どもから、正しく「はをへ」を使っているか交流させる。</p> <p>◇ できた子どもは、分からない子どもに作り方を教えるように指示する。</p>
まとめる 5分	5 本時のまとめをする。	<p>T 「はをへ」の使い方をまとめます。</p> <div data-bbox="478 797 1074 920"> <p>◎ まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「はをへ」は、上の言葉にくっついている時につかう。 </div>	<p>☆ 「はをへ」を使った文を書くことができる。(ノート)</p> <p><B評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 例の文が1つ書ける。
振り返る 10分	6 振り返りの感想を書く。	<p>T 今日勉強した「はをへ」について、分かったこと、友達から学んだこと、これまでの自分と変わったことなど書きましょう。</p> <div data-bbox="469 1088 663 1312"> <p>A</p> <p>「はをへ」は、上の言葉にくっつく時に使うことが分かりました。</p> </div> <div data-bbox="683 1088 877 1312"> <p>B</p> <p>「ぼくは」「わたしは」と、書くのが正しいと分かりました。</p> </div> <div data-bbox="896 1088 1091 1312"> <p>C</p> <p>Aさんの考えを聞いて、はをへの使い方が分かりました。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 時間がない時は、顔マークで、よく分かったかどうか評価させる。

6 板書計画

○ はをへをつかおう

◎ はをへは、どんなときにつかえばいいのかな。

① ぼくわ、じどうげんかんえいきました。

② あさがおのつるおみつけました。

③ ぼくわ、うれしかったです。

うえのことば
にくつつく

・まちがい
ぼくわ↓ぼくは
つるお↓つるを
じどうげんかんえ↓じどうげんかんへ

・ぶんづくり

・ともだちとこうりゆう

やりかたのせつめい

◎ まとめ

「はをへ」は、うえのことばにくつついているときにつかう。

◎ ふりかえり